

11月15日（金）3限 12:50~14:20

G8-502号館

難民・移民のソーシャルワーク

石川美絵子(日本国際社会事業団常務理事・
ソーシャルワーカー)

外国籍人口が増加しつつある中で、課題の分析と支援が追いついていない。本講義では社会福祉とソーシャルワークについて概説し、人権擁護の視点から、日本に暮らす難民と移住者の支援に何が求められるのか、現場での実践を踏まえて考える。

津田塾大学国際関係学科卒業。社会福祉士。法務省「第6次出入国管理政策懇談会難民認定制度に関する専門部会」（2013-2014）委員、内閣官房「第三国定住による難民の受入れ事業の対象拡大に係る検討会」（2018-2019）委員を務める。慶應義塾大学システムデザインマネジメント研究科修了。

11月19日（火）3限 12:50~14:20

法政経学部203号

移民政策の不在がもたらす

「いのちの差別」

大川昭博(自治体の社会福祉職、移住者と連帯する
全国ネットワーク理事)

「外国人材」の受け入れが進む中で、もともと医療から排除されている非正規滞在者のみならず、就労資格で来日している労働者の医療保険の権利を制限しようとする動きが広まっている。本講義では、移民政策の不在が外国人住民への「いのちの差別」をもたらしている事態に光を当て、今後のあるべき政策について考える。

日本社会事業大学卒。自治体の社会福祉職として勤務する傍ら、移住者の医療・福祉・社会保障の課題に取り組む。2016年度まで神奈川県多文化ソーシャルワーク講座の検討委員。著作に「多文化社会の選択—シティズンシップの視点から」、「シェルター・女たちの危機」、「まるわかり外国人医療—これであなたも六法いらず」、「外国人の医療・福祉・社会保障相談ハンドブック」等。